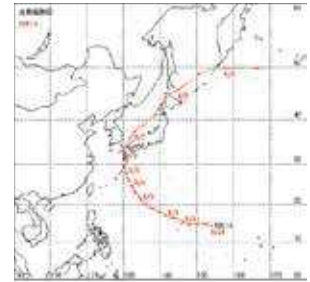




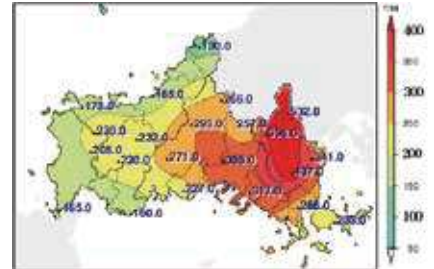
山陽自動車道の崩落(岩国市)



錦川鉄道の土砂崩れ



台風経路図



総降水量分布図



岩国市川西交差点



錦帯橋



美川小中学校共用体育館

気象の概要	<ul style="list-style-type: none"> ■ 台風第14号は、9月6日に長崎県諫早市付近に上陸した後、勢力を弱めながら佐賀県や福岡県を縦断し、20時頃響灘へ出て、夜に山口県の北西岸を経て日本海を北東へ進んだ。 ■ 1時間降水量は、羅漢山で59mm(6日17時20分)、広瀬で55mm(6日19時10分)、岩国で47mm(6日18時00分)を観測し、6日の日降水量は、7観測点(羅漢山472mm 玖珂382mm 広瀬352mmなど)で観測史上1位を記録した。 					
	最低気圧(hPa)	973.3(下関)	最大風速(m/s)	24.0(宇部)	最大瞬間風速(m/s)	35.4(山口)
	総降水量(mm)	532.0(羅漢山)	日降水量(mm)	472.0(羅漢山)	1時間降水量(mm)	59.0(羅漢山)
被災場所	県内全域					
被害の規模	(人的被害)死者3名、重傷者3名、軽傷者8名 (住家被害)全壊6棟、半壊332棟、一部破損64棟、床上浸水745棟、床下浸水847棟 (その他被害)道路233ヶ所、河川491ヶ所、がけ崩れ241ヶ所 など <被害額総計>約126億円					
被害の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ■ 台風第14号は、山口県の西の海上を経て、日本海を北東へ進んだため、県内全域で雨が強まり、特に中部、東部では22時頃まで激しく降り、錦川流域では高速道路の法面の崩壊による人的被害や、床上浸水などの住家被害が多数発生した。 					



台風が接近・上陸すると、大雨、洪水、暴風、高潮などをもたらすんだ。特に、傾斜の急な斜面や川の近くでは、台風による大雨によって、がけ崩れや土石流、河川の氾濫が発生しやすくなるから注意してね。

体験談

『高校生を話し相手に笑顔のおばあちゃん ～集落総出でボランティア～』

岩国市 女性 看護師

被災した集落では、そこに住む人たちが総動員で水害のあと片づけをやりました。家がどっぷり水に浸かっているのに、毎日毎日救援物資を配る手伝いをしてくれたおばあちゃんもいました。配って歩いているから、自分の家に救援物資が来たときに受け取る人がいなかったというおまけ付きでね。

中学生、高校生も手伝ってくれました。「もう、あんたら一緒にお茶飲もうや!」と言って、高校生とお茶を飲んでいるおばあちゃんが一番嬉しそうでした。私たちが泥かきするよりもずっと。

やっぱり、しゃべりたかったんです。命はかろうじて助かったものの、家中泥だらけになって何から手をつけたら良いかもわからず不安がいっぱい。そんな時、孫みたいな高校生と話をするだけで、すごくホッとしたんだと思います。



ボランティアの状況

内閣府『1 日前プロジェクト』より転載

体験談

『ボランティアを受け入れてもらうのも大変 ～お年寄りの警戒心高く～』

岩国市 女性 看護師

被災したのは、川沿いに家がポツポツと 20 軒ぐらい点在している集落でした。当時、ボランティアさんたちが片づけに来てくれたんだけど、「ありがとうございます」って、丁寧に断ってるの。目が「お家に入らないで」って言っている。助けが無かったら片づく訳ないのを知っているのに。

「でも、お婆ちゃんどこで寝るの?」と言うと、「2 階はかつかつ無事やから、濡れてはおるけど、ちょっと濡れてないスペースに布団敷いて寝る。土日になったら、東京と大阪から息子らが来るから」って。土日までまだ 5 日間ぐらいあるのに。

40 代のご夫婦と 70 代の老夫婦では全然違うんですよ。人手が来たら、「ほんなら片づけてもらおうね」って前向きに言われるのは 50 代ぐらいまで。70 代になると、放心状態になっている上に、よそから来た人に対する警戒心が強いんです。

幸い、私はこの地域で育った身ですから、「ああ、あんたあそこんとこの娘さんかね」という話から、お掃除を始めることができました。身近な人の顔が無かったら、ボランティアさんたちも片づけに入れんことも多いのです。



錦川流域

内閣府『1 日前プロジェクト』より転載

関係する石碑



いわくにしみかわちょう せつぎん さいこうすい い ひょうじ
岩国市美川町には、台風第14号が接近したときの最高水位が表示されているよ。

【台風 14 号最高水位】

岩国市や美川町(現岩国市美川町)では、錦川が氾濫し、深いところで 2m を超える浸水深となり、2,000 戸を超える家屋の浸水被害が発生した。

岩国市美川町には、当時の浸水水位が表示されている。



台風 14 号最高水位(岩国市美川町)



地理院タイルを加工して作成



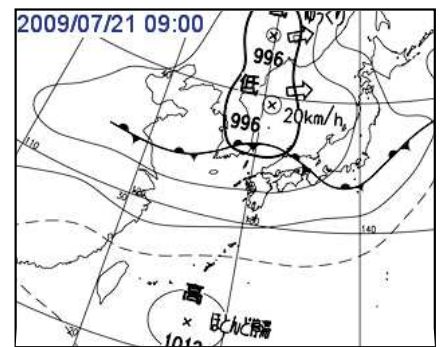
国道 262 号(防府市)



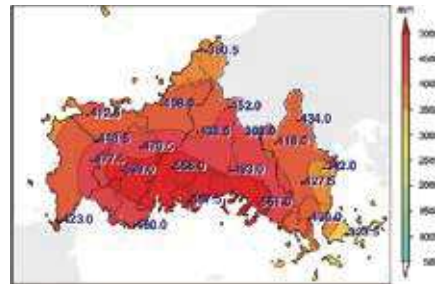
防府市真尾



防府市内



天気図(7月21日09時)



総降水量分布図



山口市稔畑



山口市小鯖



榎野川越流(山口市)

気象の概要	<ul style="list-style-type: none"> 7月20日から21日にかけて、山口県の北の海上をゆっくり南下する梅雨前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込み、前線の活動が非常に活発となったことから、大雨となった。 21日、美祢市桜山で日最大1時間降水量90.5mm、防府で日降水量が観測史上1位となる275.0mm、山口で日最大降水量277.0mmを観測し、県内各地で記録的な大雨となった。 					
	総降水量(mm)	557.5(防府)	日降水量(mm)	277.0(山口)	1時間降水量(mm)	90.5(桜山)
被災場所	県内全域、特に防府市					
被害の規模	(人的被害)死者22人、重傷者12人、軽傷者23人 (住家被害)全壊33棟、半壊77棟、一部破損51棟、床上浸水696棟、床下浸水3,864棟 (その他被害)道路397ヶ所、河川893ヶ所、がけ崩れ95ヶ所 など <被害額総計>約181億円					
被害の特徴	<ul style="list-style-type: none"> 7月19日から21日の3日間で、防府で331.5mm、山口で294.0mmを記録し、7月の月間降水量平年値に相当する大雨となり、大規模な土石流や河川の氾濫などを引き起こした。 19日から26日にかけて、西日本で梅雨前線の活動が活発になり、中国地方および九州北部を中心に記録的な大雨となったことから、気象庁では7月19日から26日にかけて災害をもたらした大雨を「平成21年7月中国・九州北部豪雨」と命名した。 					



避難をするときには、隣や近所の人に声をかけよう。地域のみんなで助けあうことで、被害を最小限に抑えることができるんだ。

体験談

『土石流のすさまじさに呆然』 山口市 男性 行政職員



国道 262 号(防府市)

当時、私は防府土木建築事務所で道路維持管理の担当をしており、当日は朝から国道 262 号の現場において土石流を体験しました。

降り続く雨が心配になり、8 時前には職場に着きました。8 時 10 分頃、警察から「佐波山トンネルの手前で道路に濁り水が出ているので対応して欲しい。」との一報が入り、すぐに担当の業者へ現場へ行ってもらうよう連絡するとパト車で現場へ急行しました。現場に到着すると、佐波山トンネル手前の法面が小さく崩壊し濁り水が流れ出たので土嚢積みを指示しました。また、市斎場へ行く道の法面も崩落し濁り水が流れ出たので、すぐに市へ対応を依頼しました。

11 時前頃、右田ヶ岳の方から濁った水が異常に流れ出しており、車道を流れる濁り水も多くなってきたので車両の走行は危険と判断し、下り車線（山口～防府）の通行止めを指示しました。

11 時を過ぎてから再び雨が酷くなり、道路沿いの剣川から濁流が溢れ出していました。また、業者から「上り車線（防府～山口）も土砂が出て通行が厳しくなっている」と報告が入ったため、すぐ上り車線も止めるように指示しました。さらに、様子を見ていると、近くにいた作業員が「山鳴りがする」と言うので注意して聞くと左右の山のあちこちで「ゴトゴト」と大きな岩と岩が当たっている音が聞こえてきました。11 時 55 頃、パト車に戻ろうとした時、右田ヶ岳からの土石流、いわゆる“鉄砲水”を目撃しました。道路には大量の土石と流木の残骸、一瞬の出来事でした。上り車線を通行中の車が 1 台吹っ飛ばされたのを見て、すぐに警察に通報しました。

何分過ぎたか定かではありませんが、今度は反対側の山麓から大規模な土石流が発生しました。岩や流木が波を打ってどんどん市内の方へ流れていくのを見て、啞然とし、その瞬間、体が硬直して血の気が失せていくのを感じました。

目の前の車は幸運にも土石流の直撃は免れ、沈まずに浮いた状態でした。車の中の人を助けようと思いつくとしたが目の前は濁流や流木の山があり容易に近づけずやきもきしていると、中の人自力で出てきました。大きな声で叫んで流木の上を伝ってこちらに来よう誘導し、お互いが手を伸ばせば何とか届く所まで来ました。しかし、1 対 1 では濁流に流されると思い、近くにいた作業員を呼んでお互いの服を掴んで踏ん張り運転者を引っ張りました。その瞬間、運転者が足を滑らせ泥水に沈みました。これで自分たちも足を滑らせたなら 3 人とも終わりと思い必死で引っ張り出しました。運転手の人に「一人だけですか」聞いたら「はい」と答えたので少しホッとしました。

その後、中央分離帯へ避難しましたが、水嵩も徐々に増してきたので、これ以上ここに居てはみんな危ないと思い、少し流れが落ち着いた頃を見計らって濁流の中を歩道側へ移動し、もう 1、2 歩で歩道へたどり着く瞬間、濁流に足を取られそのまま倒れ込んでしまいました。10m くらい流されたのでしょうか、ようやく街路樹に掴まりました。転倒の際、時計は壊れ、携帯電話には水が入り使用不能、メガネのレンズに泥がべったり洗おうにも泥水しかない。そういう状態で、約 3 時間流木や岩が流れてくるのを避けながらその場から動けませんでした。

夕方近くになるとやっと雨は止んで、濁流も少しずつ引いて動ける状態になったので市内方面へ移動しました。結局、事務所へ着いたのが 18 時頃だったと思います。鏡で自分の姿を見たら泥だらけ、まるで田んぼの中でバレーボールでもしたような姿でした。



国道 262 号(防府市)

体験談

『近所へ避難を呼びかける

～危ないと思ったら、早めの避難を～』 防府市 男性 自治会長



国道 262 号(防府市)

7月21日、前日からの雨脚はさらに強くなり、高台に位置する我が家から伺える周囲の景色が刻々と薄暗い雲域に変わっていくように見えた。

午前9時を過ぎていただろうか国道262号の片側二車線のうち一車線が大量の雨水で覆われ、拳ぐらいの石ころが勢いよく流れ出す。これまでも、佐波山トンネル出口を塞ぐほどの土砂崩れは何度も起こっており、国道が通行止めになることはあったが、今回は、「ただごとではない」という予期せぬ不安とこのままではいけないという動揺から、ご近所に避難するよう一軒ずつ伝えて廻った。

午前11時を過ぎた頃、避難を申し出た一人住まいのご老人を車で右田公民館へ避難させた。その後公民館から自宅に戻ろうとすると、国道は通行止めになっていたため、国道脇の狭い市道を通って自宅に向かった。市道が登り勾配に近づいた瞬間、一挙に土石流が車正面に迫ってきた。車が20mぐらい後ずさりし、車の天井を土石流が覆った。車の左側は流木で埋め尽くされ、まるで車が防波堤を築いたような状態だった。しばらくして、流れが緩やかになった時を見逃さず、車から脱出、道路そばの民家の玄関ポーチの柱にしがみつき難を逃れた。土石流の発生から50分ぐらいたったであろうか、やっと我に返り、車はその場に放置し、自宅へ向かった。土石流の隙間を縫うようにしてやっとの想いで自宅にたどり着くと、我が家は想像した以上に被害は少ないほうだった。近所の若い親子4人が我が家に身を寄せていた。

午後、空を救助ヘリが旋回を繰り返していた。まもなく、我が家にも救助ヘリが訪れ、全員が救助された。ヘリから見た土石流の爪痕はまさに地獄のあり様であった。

災害から1年目の平成22年7月25日には、豪雨災害の犠牲になられた4名の方々の遺志を永く後世へ伝えようと慰霊碑を建立し、慰霊祭式典を営んだ。今回の災害は住民一人ひとりの心から永遠に消えることはない。これを契機に住民の絆を大切に、災害に負けない地域づくりに取り組んでいきたい。



消防防災ヘリ「きらら」による救出

関係する石碑



ほうふしかつさか 防府市勝坂には、^{ごうさいがい}豪雨災害の犠牲者の遺志を永く後世へ伝え、^{ぎせいしや}災害を忘れないた^{いし}ための慰霊碑があるよ。

【平成21年7月21日豪雨災害慰霊碑】

豪雨による土石流で4人の命が失われた下右田・勝坂地区では、災害から1年目の平成22年7月25日に、豪雨災害の犠牲者の遺志を永く後世へ伝えようと、勝坂自治会により国道262号線沿いに慰霊碑が建立された。



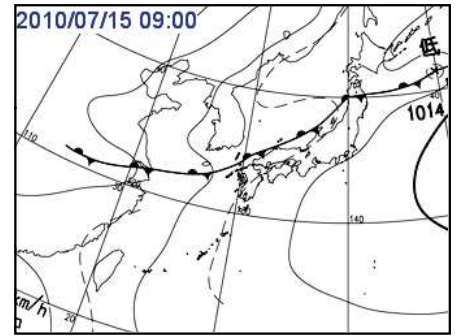
豪雨災害慰霊碑(防府市勝坂)



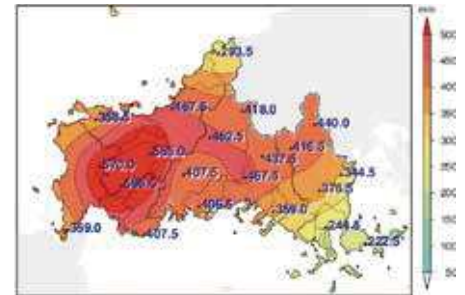
地理院タイルを加工して作成



JR 厚狭駅



天気図(7月15日09時)



総降水量分布図



下関市豊田町



JR 美祢線



周南市小畑

気象の概要	<ul style="list-style-type: none"> ■ 7月10日九州南部に停滞していた梅雨前線が、11日にかけて北上し、7月12日から15日にかけて九州北部から山口県付近に停滞したため、県西部を中心に局地的な集中豪雨となった。 ■ 15日未明から朝にかけて、下関市や美祢市を中心に1時間降水量が50mm以上の雨が降り、下関市豊田では15日06時28分に、72.0mmの1時間降水量を観測した。 ■ 7月10日から20日にかけての総降水量が、美祢市東厚保で596.5mm、美祢市秋吉台で585.0mm、下関市豊田で570.0mmを記録し、7月の平年の月降水量の1.5倍を超える大雨となった。 				
	総降水量(mm)	596.5(東厚保)	日降水量(mm)	234.0(秋吉台)	1時間降水量(mm)
被災場所	県西部、中部				
被害の規模	(住家被害)全壊3棟、半壊35棟、一部破損23棟、床上浸水608棟、床下浸水974棟 (その他被害)道路329ヶ所、河川372ヶ所、がけ崩れ67ヶ所 など <被害額総計>約118億円				
被害の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ■ 厚狭川や木屋川が氾濫し、多くの家屋が浸水したほか、道路法面の崩壊、JR美祢線の橋りょう流出などによる交通網の寸断、水道施設の被災による大規模な断水が発生した。 				



梅雨前線による集中豪雨で、河川の氾濫や家屋の浸水が発生したんだ。
集中豪雨は短時間のうちに局所的に雨が降るため、道路や低地が水に浸かったり、河川が急に増水したりするから注意してね。

体験談

『「来る、来る、来る」路地はまるで川のように

～川の氾濫の大変さ実感～』 山陽小野田市 女性 菓子店経営



新橋落橋

朝起きたときに川の水の音を聞いて、「あ、違う」って思いました。で、姉と川の様子を見にいくと、水の勢いは今まで見たことがないほど速く、川の水が橋にぶつかって跳ね返っていました。

そのうち、橋の欄干のすき間から水があふれ出し、かまぼこ状の橋の上を川のように流れ出したのです。「来る、来る、来る」って感じでね。私たちは水に追いかけるように家に帰り、とりあえず母と犬を2、3軒先の敷地がちょっと高い知り合いの家に避難させました。結局、我が家に水が浸入してくるのを止めることはできませんでした。

川からどんどん水が上がって来るし、側溝は水がはけない状態になっていますから、川と道路の差がなくなってきて、細い路地はまるで川のようにダーッと水が流れていました。

長いこと住んでいて今まで水に浸かったことが無かったので、「水は来ない」と思っていました。被災して初めて「川が氾濫するって大変なことなんだな」って思いました。

内閣府『1 日前プロジェクト』より転載

体験談

『土のうが必要になるなんて夢にも思わず

～これまでの経験が裏目に～』 山陽小野田市 女性 菓子店経営

それまでは徐々に徐々にという感じだったんですけどね。目に見えて水が増えてきたのは、ほんの5分か10分ぐらいの間でした。で、「仕方ない。避難しようか」って感じで、近所の高台にあるお宅に避難させてもらいました。

水がヒタヒタと店の方に押しよせてきた時には、「こういう時は土のうが欲しいね」って本気で話をしていました。

昨年、川向こうが水に浸かった時でもうちの方は大丈夫だったし、今までそういう危険を感じたこともなかったので、土のうが必要になるなんて夢にも思っていませんでした。だから、店に水が浸入するのを防ぐ手立ては何もありませんでした。

「万一水害になったら、物なんかに執着しないで、命だけ持って出たらいいい」としか言えませんね。本当に水はあっという間にやってきますから、一人暮らしのお年寄りを誰がどこに避難させるかは、前もって決めておくようにしなければいけないと思いますね。



厚狭駅交差点

内閣府『1 日前プロジェクト』より転載

トピックス

避難をするときに注意する事

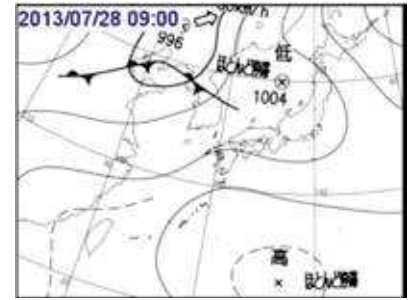
次のことに注意して、避難しよう。

- 避難は原則として徒歩で行う。
- 避難するとき持ち出す荷物は必要最小限にする。
- 水があふれている道を通るときは、足元に注意し、前方を棒などで確認しながら移動する。
- 長靴は脱げやすいため、避難には向いていない。歩きやすい靴をはいて避難する。
- 家族や隣近所の人と声をかけあって、ある程度かたまって避難する。

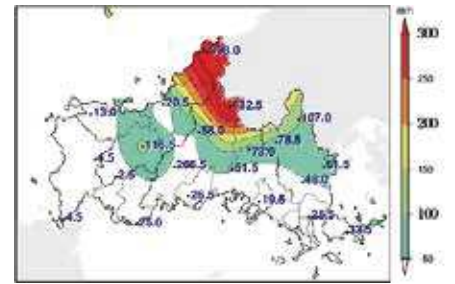




山口市阿東



天気図(7月28日09時)



総降水量分布図



山口市阿東



萩市小川



萩市須佐

気象の概要	<ul style="list-style-type: none"> 山口県付近に発達した雨雲が次々と流れ込み、28日朝から昼過ぎにかけて県北部や中部の一部で猛烈な雨となった。 山口市では28日08時13分に143.0mm、萩市須佐では同日12時04分に138.5mmと、それぞれ観測史上1位となる1時間降水量を観測し、萩市須佐では7月28日12時20分までの3時間に7月の月降水量の平年値(281.6mm)を上回る301.5mmを観測した。 				
	総降水量(mm)	432.5(須佐)	日降水量(mm)	351.0(須佐)	1時間降水量(mm)
被災場所	県北部、中部				
被害の規模	(人的被害)死者2人、行方不明者1人、重傷者4人、軽傷者7人 (住家被害)全壊32棟、半壊508棟、床上浸水153棟、床下浸水1,050棟 (その他被害)道路327ヶ所、河川360ヶ所 など <被害額総計>約190億円				
被害の特徴	<ul style="list-style-type: none"> 阿武川、田万川、須佐川が氾濫し、多くの家屋が浸水したほか、道路法面の崩壊、JR山口線の橋りょう流出やJR山陰本線の橋脚沈下などによる交通網の寸断、水道施設の被災による大規模な断水が発生した。 特別警報の運用開始前であったが、気象庁は、山口県と島根県で特別警報に相当する「これまでに経験したことのないような大雨」であると発表して、「ただちに命を守る行動をとってください」と最大級の警戒を呼びかけた。※特別警報の運用開始は平成25年8月30日 				



避難をするときに、避難場所まで行くのが危険な場合には、無理に避難場所まで行かず、屋内の安全な場所に避難してね。

体験談

『思いもなかった水害』 萩市 女性 生徒



萩市須佐

私は、あの日家でテレビを見ていました。外は、雨が強く、家の中は停電が続いた状態でした。友達と、電話などで「雨がひどいね」などと話していました。外をのぞいてみると、みぞから水があふれていました。私は、こんな短時間で水がこんなにあふれると思いませんでした。すると、防災行政無線がなり、避難勧告が出されました。友達と公民館へ避難しようとした。でも、道路は水があふれていて、友達の家は、玄関まで水がきていて避難できない状態でした。お姉ちゃんやいとこなどから電話がありました。「危ないから避難

しちやいけん。」と言われて、避難するのをやめました。私は、こわくなり、近所の人を呼びました。家で過ごしていると、少しずつ雨がやんできました。外に出てみると、駐車場の前の道路は、水がひいていました。でも、公民館側の方は、大人の腰ぐらゐまで水がありました。水がひいた後、小学校やおばあちゃんの家などに行きました。行く途中に、泥などがたくさんあり、横断歩道などはくずれていました。

私は、水は重い物などをこわしたりするのだなと思いました。おばあちゃんの家は、泥だらけで冷蔵庫などもたおれていました。学校も、プランターなどがちらばっていました。私は、家に帰りながら、「ひどすぎる」などといろんなことを思いました。

次の日になり、もとの須佐に一日でも早くもどってほしいという思いから、友達と一緒に私たちがボランティアをすることにしました。

須佐地域ふるさとづくり協議会『2013. 7.28 山口県北部豪雨災害 次代に伝えたい102 人の証言』より転載

体験談

『家族、集落、地域を守る』 萩市 男性 消防団員

28日、いつものように目覚め、須佐の花火大会を楽しみに神戸から帰省した孫たちの顔を見て久しぶりの団らん。9時過ぎごろから、その団らんも束の間で、窓の外では稲光、激しい雨音。雨と言うよりも「ヒョウ」でも降ってるんじゃないかと疑うほどの大粒の雨。1年生になったばかりの孫が、夏休みの宿題と向かい合っている。窓の外を見ると明方よりも増して暗くなり雷の音が激しく響き、頻りに停電する。その都度懐中電灯やローソクに火をともし、その明りで宿題を…。そうこうしているうちにも、家族の会話は「昼までには雨が止みそうじゃけえ、今晚は花火大会があるじゃろうねえ」と全然危機感がない。



萩市須佐

防災メールで「大雨洪水警報」が入ってくる。それでも「またいつものことじゃあ、そのうち止むじゃろう」。その警報にも全く危機感がなかった。そんな中、10時頃に総合事務所から「副団長！本町の交番付近は道路が冠水していますよ！大変なことになっています！すぐに出動して下さい！」との電話を受け、まず、家族に安全確保の体制を指示し、次に集落の自主防災組織の役員に「災害時要援護者」への声掛け支援をお願いして総合事務所に向かった。その時は中津にある私の店舗のことは眼中になかった。総合事務所につく頃には、今までに増して雨の量が半端じゃないほどの降り方。総合事務所には、市職員が一人二人と集まってきて、鳴りっぱなしの電話に対応が間に合わない。消防団もすぐに出動をかけるも、道路の冠水などで思うように動けない。各地より避難支援の要請があるが消防団員もそこに行く事が出来ない。大変なもどかしさを感じた時間であった。そんな中でも消防団員が各地で救助や支援に立ち向かったと事後報告を受けた。身の危険を感じながらの行動に敬意を表したい。もう少し早く出動できたら…。しかしあれだけの短時

間での雨量では、完璧に対応はできない。今後課題を残した。家族からも、家の周辺道路は膝上まで冠水し、床上まで浸水しそうだと救助の要請があったが、2階で避難するように促した。自主防災を組織していても、あまりの短時間の災害でうまく機能しなかったことを反省。3時半ごろ中津の店舗を思い出し、周りの視察を兼ね腰まで浸かりながら近くまで行き、大変なことになっていることが分かった。

翌日、天井まで浸かった店舗ようやく入る事が出来た。無残な姿に全身から力が抜け一瞬呆然とした。ここから猛暑の中1週間に及ぶ片付けが始まった。時間が経ち振り返ると定休日でもよかった。もし営業中で店に居たらどうなっていたらだろうか。失った物の代償も大きかったが、命があったことが何よりも家族で慰めあった。



萩市須佐

須佐地域ふるさとづくり協議会『2013. 7.28山口県北部豪雨災害 次代に伝えたい102人の証言』より転載

トピックス



避難情報の種類

さいがい じゅうみん ひがい およ
 災害が発生し、住民に被害が及ぶと判断されるときに、市町は住民に対して
 ひなんじょうほう
 避難情報を発表するんだよ。

- ▼ 避難準備・高齢者等避難開始 (警戒レベル3) 雨が降り続くなどして、避難勧告や避難指示を行うことが予想される場合に発表される。避難の際に助けを必要とされる高齢者の方や障害をお持ちの方などは避難を開始する。それ以外の方も避難に備えて準備を行う。
- ▼ 避難勧告 (警戒レベル4) 安全のため居住者に避難を勧め、促すもの。「避難してください」という呼びかけ
- ▼ 強 避難指示 (警戒レベル4) 被害の危険がせまったときに出されるもので、勧告より拘束力が強く、住民を避難のために立ち退かせるためのもの。「直ちに避難してください」という緊急性の高い呼びかけ

トピックス

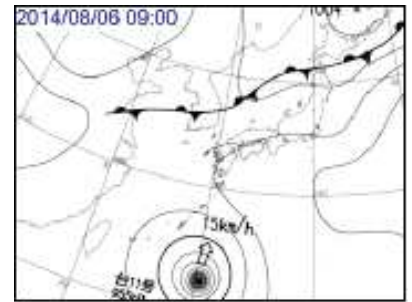


ぜんせん ていきあつ ふ きしやうだい ほっぴやう
 台風や前線、低気圧が近づくと大雨が降るおそれがあるんだ。気象台が発表する
 さいしん きしやうじやうほう かくにん ひなん
 最新の気象情報を、確認して早めの避難を心がけよう。

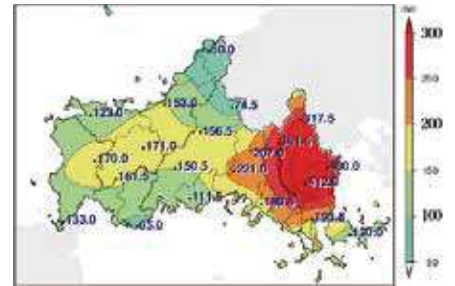
- 注意報・警報・特別警報
 大雨などにより災害が起こるおそれがあるときに、気象台が市町単位で発表する。
 - 注意報 災害が起こるおそれがあるとき。
 - 警報 重大な災害が起こるおそれがあるとき。
 - 特別警報 警報の発表基準をはるかに超える豪雨が予想され、重大な災害の起こるおそれが著しく大きいとき。
- 土砂災害警戒情報
 雨が長く降り続いたときなど、土砂災害の危険度が高まった場合に、気象台と県が共同で発表する。
- 記録的短時間大雨情報
 現在の降雨がその地域にとって災害の発生につながるような、まれにしか観測しない降水量であることを知らせるために、気象台が発表する。山口県では1時間100ミリ以上の降水量が観測された場合に発表される。



岩国市新港



天気図(8月6日09時)



総降水量分布図



岩国市関戸



和木町瀬田



和木町瀬田

気象の概要	<ul style="list-style-type: none"> 山口県では、8月1日から4日にかけて、台風第12号や台風から変わった熱帯低気圧の影響で暖かく湿った空気の流れ込みが続いた。 8月5日から6日にかけて、日本の南にある台風第11号や高気圧周辺部からの暖かく湿った空気が流れ込んだため、大気の状態が非常に不安定となり、山口県東部を中心に発達した雨雲が停滞したため猛烈な雨となった。 					
	総降水量(mm)	412.0(玖珂)	日降水量(mm)	217.0(岩国)	1時間降水量(mm)	71.0(岩国)
被災場所	県東部					
被害の規模	(人的被害)死者2人、重傷者3人、軽傷者1人 (住家被害)全壊10棟、半壊190棟、一部破損1棟、床上浸水11棟、床下浸水265棟 (その他被害)道路41ヶ所、河川75ヶ所 など <被害額総計>約19億円					
被害の特徴	<ul style="list-style-type: none"> 岩国市では6日05時51分までの1時間降水量は71.0mmの観測史上1位を記録し、6日05時50分までの3時間降水量では8月の月降水量の平年値(127.2mm)を上回る156.0mmの観測史上1位を記録する大雨となり、複数箇所で土砂災害が発生し、住宅地が被害を受けた。 					



いわくにしくが
岩国市玖珂で71.0 mm の1時間降水量、156.0 mm の3時間降水量を観測し、土
しゃさいがい
砂災害が発生したんだ。

自分達の住む市や町で過去にどのような災害があったのか、そのときの降水量がどれくらいあったのかを確認しておくことはとても重要なんだ。

体験談

『あたり一面泥の海～あつという間に床上浸水～』 和木町 男性 消防団員

私が消防団に入って20年経ちますが、このような大雨は初めての経験でした。

6時くらいの一歩雨がひどい時に、家の横の坂根川から水があふれているのを見て恐怖を覚えました。その時はまだ、消防団も召集はかかっておらず、下が浸水しているという情報はありませんでした。

11時に現地対策本部が設置され、消防団の招集がかかりました。召集されて初めて現地を見ました。あたり一面浸水していて、何をしたらよいか分からず、見ているしかありませんでした。水害の恐ろしさ、何も出来ない無力さを感じました。

召集された消防団員から情報が集まり、だんだんと状況が分かってきました。早朝だったため、皆さん自宅にいて、100戸近く孤立していました。皆さん2階に避難されたそうですが、あつという間に床上まで水が来たそうです。

まずは、大型のボートで、孤立した人、一人で住んでいる高齢者などの救助を行い、だんだんと水が引いてくると、小さなボートを使って、各家庭に水を配布しました。

午後2時半くらいになって、道路が見えるまで水が引いたので、直ぐに道路の復旧を始めました。流されてきた土砂や、流されて道路をふさいでいた車、家の中から出された家財などを道路の脇に寄せ、とにかく道路が通れるようしました。道路が通れるようになると、次はポンプ車で道路の清掃、いたるところにある泥を洗い流しました。泥は乾くと粉塵となるので、急ぐ必要がありました。

山が崩れたすぐ下に住んでいる方から「浸水はしなかったけれども、山は崩れて水が来たから、身の危険を感じて、職場まで直ぐに逃げた。」というのを後から聞いて、この辺の人たちは私とは比べ物にならない程の恐怖を感じたんだと思います。



和木町瀬田

体験談

『災害は「まさか」ではなく「もしかしたら」～事前の備えが大切～』 岩国市 男性 自治会長



岩国市新港

前の日から集中豪雨のように雨が降って、深夜12時過ぎてからだんだん雨の降りがひどくなりました。3時頃だったと思いますが、バケツをひっくり返したような雨が降っていて、これは危ないと思いました。

そうするうちに、3時半頃だと思いますが、1度目の山崩れが起きました。新港川に向かって山が崩れました。大きな岩がごろごろと流れていくのを見た川沿いの人から「これは逃げんといけんと思ったけれど、あれだけの雨の降りだと、外に出るのも危ないので、じっと我慢とった。」と後で言われました。でも、雨音で何も聞こえなくて、

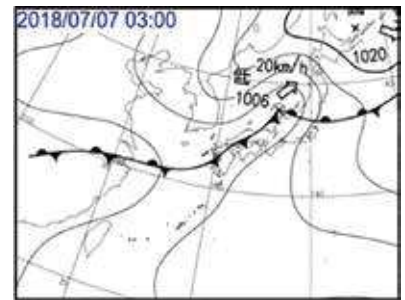
私はそんな状態だというのが分かりませんでした。

そして、2度目の山崩れが5時50分ぐらいに起きました。一瞬でした。ドカーッと家が揺れたものからです。飛び起きて外を見ると、上にある家が崩れてその埃がプワーッと舞っていました。上に上ってみると2階建ての家がなくなっていました。上の家に1人若い人がいて、その時居たのかは分からなかったけれど、警察に状況だけは知らせようと思って電話しました。また、土砂が線路まで流れていたから、JRにも電話しました。

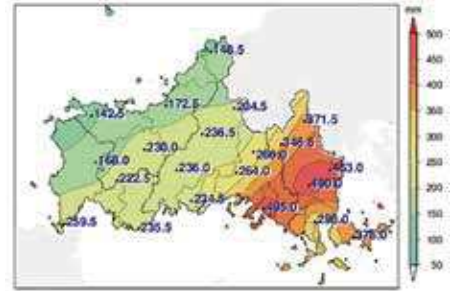
山崩れになるとは、私も住んでいる人の誰もが思わなかったです。ここはそのような谷じゃないと思っていたからびっくりしました。平成19年にこの地区で自主防災を立ち上げています。災害はいつ発生するのかわからないから、早く進めないといけないということで、何があっても対処できるようにしようじゃないかと、今話し合いを進めています。



岩国市周東町



天気図(7月7日03時)



総降水量分布図



岩国市周東町



光市小周防



光市小周防

気象の概要	<ul style="list-style-type: none"> 7月5日から6日にかけて、梅雨前線が九州北部地方に停滞した。 3日に東シナ海から対馬海峡を通過し日本海に進んだ台風第7号の影響で、西日本は暖かく湿った空気に覆われ、長時間にわたり大気の状態が非常に不安定となり、山口県では活発化した梅雨前線の影響で記録的な大雨となった。 					
	総降水量(mm)	495.0(下松)	日降水量(mm)	343.0(岩国)	1時間降水量(mm)	86.0(下松)
被災場所	県東部					
被害の規模	(人的被害)死者3名、重傷者3名、軽症者10名 (住家被害)全壊23棟、半壊520棟、一部損壊106棟、床上浸水144棟、床下浸水727棟 (その他被害)道路380箇所、河川428箇所等 <被害額総計>約221億					
被害の特徴	<ul style="list-style-type: none"> 7月5日から8日にかけて断続的に激しい雨が降り、総降水量は、5日から8日にかけて下松(下松市)で495.0mm、玖珂(岩国市)で490.0mmを観測するなど、中部、東部を中心に大雨となった。1時間降水量は、下松で5日2時1分までに86.0mmの猛烈な雨、玖珂で7日2時32分までに76.0mmの非常に激しい雨が降り、観測史上最大となった。24時間降水量は、岩国(岩国市)で7日5時10分までに343.0mmと観測史上最大となり、複数個所で土砂災害が発生し、住家地が被害を受けた。 					

体験談

『早めの避難が命を救う』 光市 自治会長

光市では、7月5日から7月8日にかけて断続的に激しい雨が降り、累計456.0mmの大雨を記録しました。

私が住んでいる小周防新宮地区では、8日未明に島田川が氾濫し、県道光・徳山線が冠水して、一時孤立状態になりました。そして、多くの家屋で床上・床下が浸水し、甚大な被害が発生しました。

消防団員の私は、6日の19時頃に召集がかかり、広報車で地域を回って自主避難を呼びかけました。23時頃には天気が小康状態になったため、いったん解散したのですが、深夜の3時に再度召集がかかりました。その後、午前4時頃から島田川が越水し水が入ってきて、5時には道路が冠水してしまいました。

この7月豪雨を振り返ると、色々な課題があったと思います。

特に、高齢者の避難は大変少なく、支援体制が不十分だったと感じました。高齢者には、避難に必要な情報が届かず、避難の判断や、自力で避難することができない方が多くいらっしゃり、安心・安全に避難できるシステムの構築が必要であることを痛感した次第です。

そんな中、地域でも、災害直後だからこそ出来ることを協力してやろうということになり、避難体制づくりをすすめていくこととしました。

まず、自分達の住まいや地域が危険な場所にあるのか、地域全体の災害リスクの確認や、避難場所等を理解した上で、高齢者も含めた地域住民が避難できるよう、呼びかけあって避難するグループを作りました。その後、実際に避難訓練に取り組み、訓練後にはみんなで振り返って、そこで出た改善点や意見を次回の訓練に活かすなど、災害時の「逃げ遅れゼロ」の実現を目指して地域一丸となって頑張っています。

地域で取り組むにはいろいろな課題がありますが、避難体制を作って訓練をすることで、地域の結束がより強固になったと感じています。

周防地区には、単位自治会が13地区あります。他の地区でも、避難体制を作る取り組みが進むよう、早めの避難を心がけてくれるようお手伝いをしていきたいと思います。



虹川交差点付近



1.5m以上の浸水



島田川付近の住家の塀



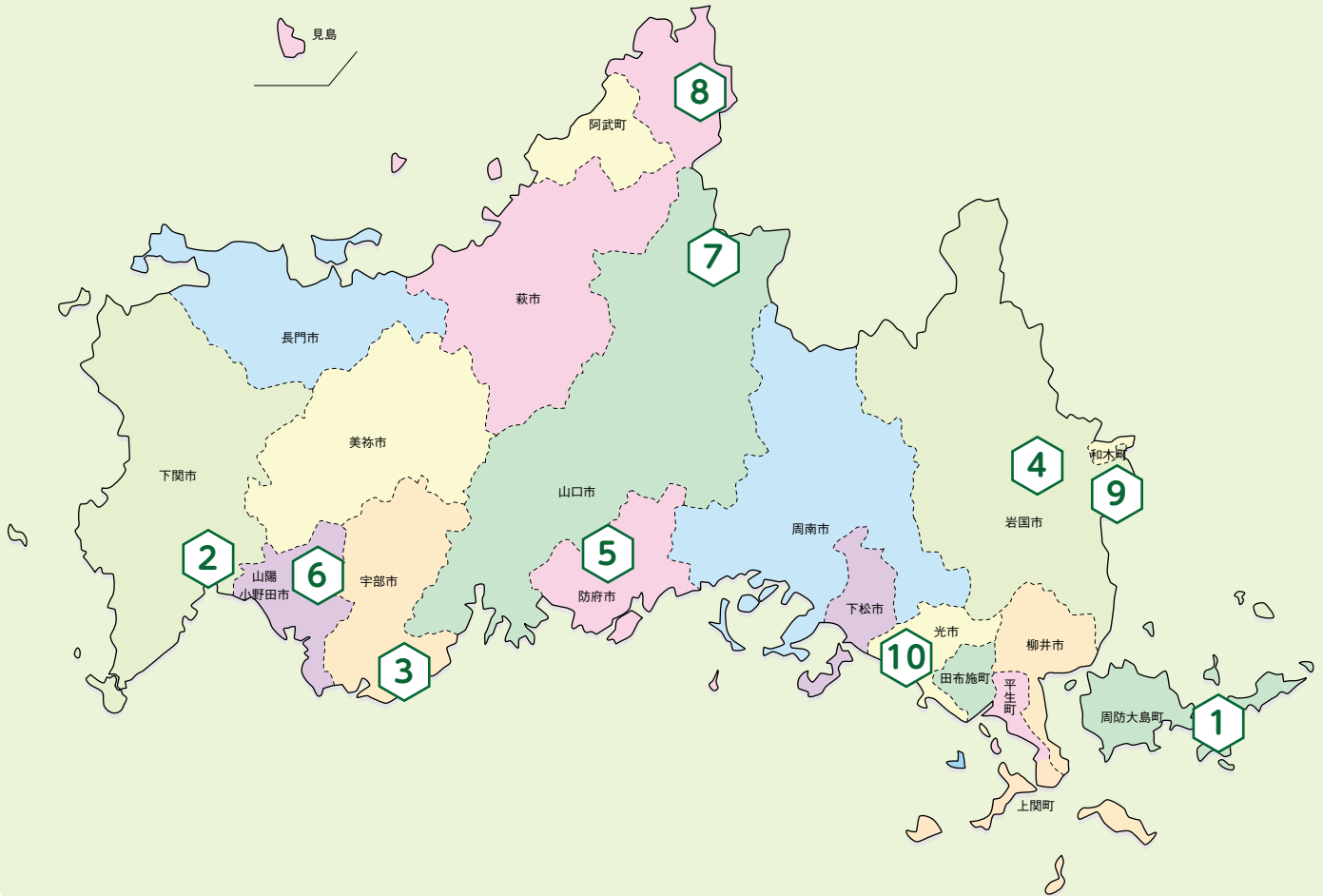
さいがいじ
災害時には、「自分は大丈夫」という思い込みに陥りやすいから、家族や地域で呼び
かけ合って、危険な状況になる前に安全な場所に避難しよう。
おちい
ひなん



県では、土砂災害や浸水害等の災害から地域を守り、安心して暮らしていけるよう、様々な施設等を整備しているんだ。

過去の災害を振り返り、災害で被害を受けた地域でどのような施設等が整備されてきたのか、どんな仕組みで被害を減らしたり防いだりしているのか調べて、身近な地域の災害について考えてみよう。

施設等の位置



施設等の紹介と関連する災害

1 離岸堤

台風による高潮被害を防止するため、波の勢いを弱めることを目的に、離岸堤を改良しています。



(周防大島町馬ヶ原)

関連する災害:

平成3年台風19号(p1-16)
台風による強風や高潮により、塩害や住宅への浸水被害が発生しました。

2 防潮堤など

台風による高潮被害を防止するために、防潮堤を整備し、また、洪水を安全に流下させるために、河道掘削や川幅を拡げ、川の水が流れる面積を大きくしています。



(下関市清末)

関連する災害:

平成11年台風18号(p1-17)
台風の接近と大潮の満潮が重なり、瀬戸内海沿岸で記録的な高潮が発生しました。

3 護岸ごがん

高潮による浸水を防ぐため、護岸のかさ上げや消波ブロックの設置を行っています。



(山口宇部空港)

関連する災害:

平成11年台風18号(p1-17)
台風が上陸し、山口宇部空港ターミナルビルが海水に浸かりました。

4 河川整備 (河道掘削・護岸整備)かせんせいび

洪水を安全に流下させるために、河道掘削や護岸整備を行い、川の水が流れる面積を大きくしています。



(岩国市美川町南桑)

関連する災害:

平成17年台風14号(p1-19)
台風による大雨で、床上浸水などの被害が発生しました。

5 砂防えん堤さぼうてい

土砂・流木等を食い止めて、いのちや住家を守り、地域の安全を守るため、砂防えん堤を整備しています。



(防府市下右田 剣川)

関連する災害:

平成21年7月21日大雨(p1-21)
県央部を中心に大雨が降り、大規模な土石流災害が発生しました。

6 河川整備 (橋脚の減少)きょうきやく

洪水を安全に流下させるために、河道掘削や護岸整備を行い、また、橋の橋脚を減らすことで、川の水が流れる面積を大きくしています。



(山陽小野田市厚狭)

関連する災害:

平成22年7月15日大雨(p1-24)
大雨により厚狭川等が氾濫し、多くの家屋で浸水被害が発生しました。

7 砂防えん堤

土砂・流木等を食い止めて、いのちや住家を守り、地域の安全を守るため、砂防えん堤を整備しています。



(山口市阿東嘉年下 吉部野上西川)

関連する災害:

平成25年7月28日大雨(p1-26)
県北部で断続的に激しい雨が降り、複数箇所で大規模な土砂災害が発生しました。

8 河川整備 (河道掘削・護岸整備)

洪水を安全に流下させるために、河道掘削や護岸整備を行い、川の水が流れる面積を大きくしています。



(萩市中小川)

関連する災害:

平成25年7月28日大雨(p1-26)
河川の氾濫により、JR山口線の橋梁流出や、JR山陰線の橋脚沈下などによる交通網の寸断が発生しました。

9 擁壁ようへき

土砂・落石等を食い止めて、いのちや住家を守り、地域の安全を守るため、擁壁工などを整備しています。



(岩国市新港町)

関連する災害:

平成26年8月6日大雨(p1-29)
岩国市では、1時間降水量が当時の観測史上1位となる猛烈な雨が降り、複数箇所で大規模な土砂災害が発生しました。

10 河川整備 (河道掘削・護岸整備)

洪水を安全に流下させるために、河道掘削や護岸整備を行い、川の水が流れる面積を大きくしています。



(光市三井)

関連する災害:

平成30年7月豪雨(p1-31)
県東部で断続的に激しい雨が降り、河川の越水や、複数箇所で大規模な土砂災害が発生しました。